

「大企業の支店に頼る経済変える」

第3部 起業支援編

生涯現役で数多くの東北企業を上場へ導く。そんな思いで日々奮闘するのが熊谷巧(65)だ。仙台市のベンチャーキャピタル(VC)、東北イノベーションキャピタル(TICC)の社長を、2003年10月の創業以来務めてきた。かつては東京で働く証券マン。転機は、日興グループのVC、日興キャピタル社長だった2002年に訪れた。当時の藤井繁・仙台市長らから「地場企業育成のため、仙台にもVCを設立するので協力してほしい」と要請されたのだ。

東北人の一計

来年から上場加速へ



東北イノベーションキャピタル社長 熊谷巧さん(65)

くまがい、こまぎ 毎週末は農作業とともに競馬を楽しむ。VCの経営者らしく、当たれば大きい三連単、馬単、WINSで勝負する。

「企業に投資。投資先を上場させて株式売却益を得ることでファンドの財産を増やし、投資主に資金を償還するのが事業の流れだ。ファンドは現在3本。04年3月時点で今春期限が到

な利益をもたらせば、償還資金を再び投資に回してもう好循環を築ける。

幸い、経営環境は12年暮れの政権交代を機に好転。景気に明るさが見え、株式市場が活気づいてきた。

TICCも追い風に乗りつつある。その象徴が昨年12月のヒューマン・メタボ

「06年3月から始めた同社への投資が実った。今後の上場見通しを聞く」と、「今年はゼロだが、来年から3年間で6〜7社」と熊谷。4月17日に開いたファンドの出資者を集めた総会では、同社幹部が投資先の数社について、上場の目標時期や主幹証券会社の名を挙げていた。どれだけ実現させられるかがTICCの将来を左右する。

熊谷は東北の地場企業が成長する活路として「独自の技術を開発し海外に販売」

「トヨタ自動車東日本と取引できる実力を身に付け事業への思いは強い。」「大企業の支店や工場に過度に依存する仙台・東北経済の構造を変える」という悲願の達成を目指す。(敬称略)

記者も一計

ノロジーズの宮野隆二社長も「苦しい時期に助けてもらった」と感謝する。ただ、東京など大都市圏の面影を見る姿勢がTICCの良き。人材の紹介や大学の研究室との連携などにも積極的だ。

東北大の大学院教授として、経営者の意識を創業者に深く

「熊谷社長は投資判断は的確だし、投資した後の支援もよい」と評価。ヒューマン・メタボ・テク

「TICCの資本金7000万円のうち3750万円を自ら出資するほど熊谷の事業への思いは強い。」「大企業の支店や工場に過度に依存する仙台・東北経済の構造を変える」という悲願の達成を目指す。(敬称略)

東北地域のポジショニング

	面積(km ² /%) (in 2011)	人口(k/%) (in 2011)	県内総生産(biW/%) (in 2011)	上場会社数 (as of 12.30.2013)
東北6県	66,951 (17.7%)	9,241 (7.3%)	32,838 (6.3%)	55 (1.5%)
新潟県	12,584 (3.3%)	2,365 (1.9%)	8,985 (1.7%)	37 (1.0%)
合計	79,535 (21.0%)	11,606 (9.2%)	41,824 (8.0%)	92 (2.6%)
日本全体	377,955 (100.0%)	126,660 (100.0%)	520,395 (100.0%)	3,536 (100.0%)